

便利ショートカット集 Contexts（コンテキスト）

Lake Controller ソフトウェアでは Contexts（コンテキスト）を使用して素早く目的のページを表示させることができます。

Contexts とはワークエリアに表示するページを 2 つから 8 つまで記憶させることができる機能です。

よく使用する機能なのに、どのようにアクセスするか忘れてしまっていたり、本番中に頻繁に行き来するページを素早く表示させることができます。

コントロールボタンの一番左側にあるボタンが Contexts です。



図 1

Contexts で使用するページ数を設定する方法

【User Preference】(F7) → 【Contexts】(F2)を選択します。

コントロールボタンには 2 から 8 までの選択肢が表示されます。

ここで使用したいページ数を設定します。



図 2 ここでは例として「4 ページ」を指定します。

図 1 の Contexts のボタンは押す度にページ数が 1 つ上がり、ここで設定したページ数に達すると、1に戻ります。



ここで Contexts の使用例をご紹介します。

2 台の LM26 (Main の 3-way と Delay の 3-way) は Total (Main と Delay の 4 つのモジュール)、Main (Main の 2 つのモジュール)、Delay (Delay の 2 つのモジュール) の 3 つのグループで構成されています。

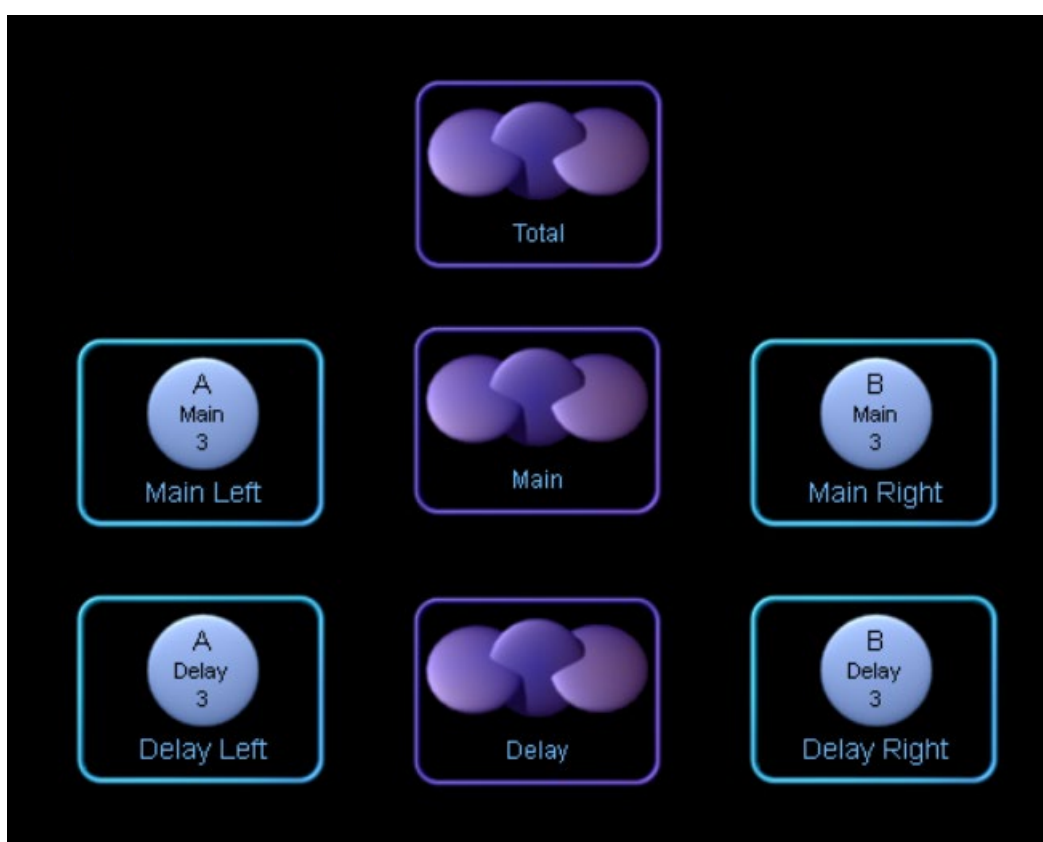


図 3

表示したいページ

1. Group EQ/LEVEL ページ (Total)
2. Group EQ/LEVEL ページ (Main)
3. I/O Config & worksheets (Main)
4. I/O Config & worksheets (Delay)

Contexts を使わずに Main の I/O Config ページを表示させるには

【Module】 (F3) → Main のモジュールをクリック → 【I/O Config & worksheets】 (F4) と 3 つの工程が必要となります。

続いて Delay の I/O Config ページを表示させるには

【Home】 (F1) → 【Module】 (F3) → Delay のモジュールをクリック → 【I/O Config & worksheets】 (F4) となります。

再度 Main の I/O Config を表示させたいといった場合には、また同じ手順を繰り返す必要があります。

このような場合に、Contexts に予め 2 つの I/O Config ページを記憶させておくことで、Contexts ボタンを押す度に表示を切り替えることができます。

- Contexts の設定方法

1. Contexts の番号を確認
2. 表示したいページをワークエリア上に表示させます。
3. Contexts ボタンを押して次のページに移動します。
4. 「1.」「2.」「3.」を繰り返して、4 つのコンテキストを設定します。

注：Contexts は最後の表示状態を記憶しているので、初めに設定したワークエリアの表示を変更してしまうと変更した最後の表示が記憶されます。

- Contexts をショートカットでアクセスする方法

1. キーボードの「C」ボタンを押しながら、表示させたい Contexts の番号（数字）のキーボードを押す
2. キーボードの「C」ボタンを離す

*数字ボタンと「C」ボタンを同時に離しても変更する場合がありますが、タイミングが合わないと変更されませんので、ご注意ください。

また、キーボードに Page Up/Page Down ボタンでもページの切替えが行えます。

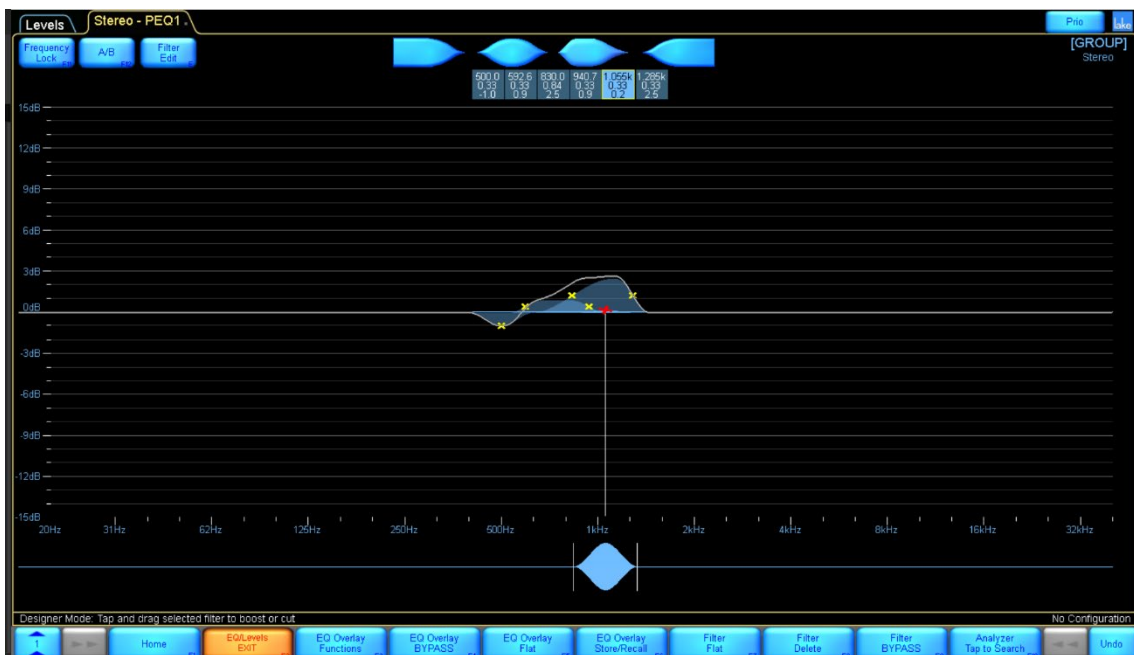
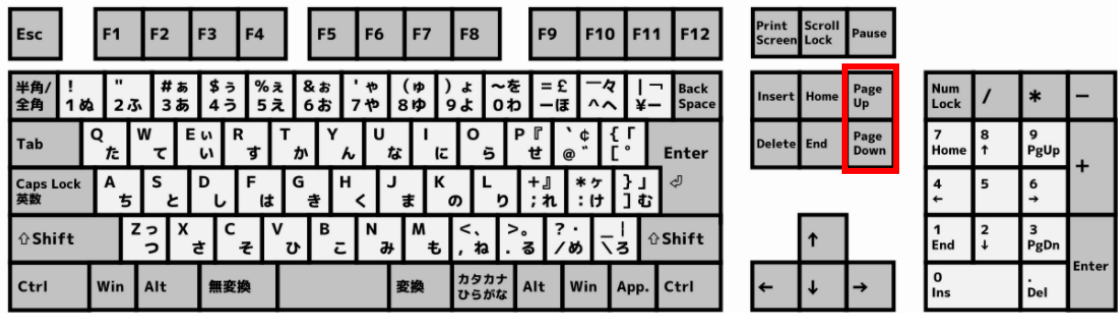


図 4 ページ 1 Total グループ EQ ページ

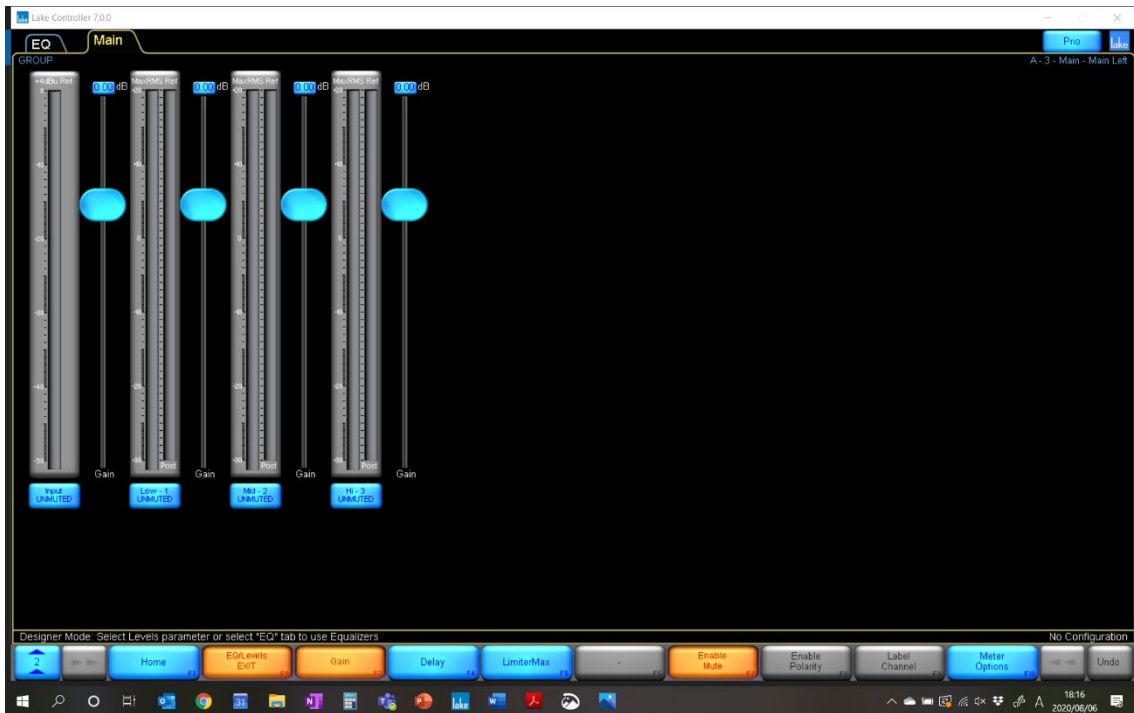


図5 ページ 2 Main グループ LEVEL ページ



図6 ページ 3 Main フレーム I/O Config & Worksheets

The screenshot displays the I/O Config software interface with the following sections:

- Primary Digital Clock:** N/A - Offline
- SRO Digital Clock:** N/A - Offline
- Input Configuration Table:**

#	Mode	Prio1	Prio2	Prio3	Prio4
1	Auto	Dante1	Empty	AES1	Analog1
2	Auto	Dante2	Empty	AES2	Analog2
3	Auto	Dante3	Empty	AES3	Empty
4	Auto	Dante4	Empty	AES4	Empty
5	Auto	Empty	Empty	Empty	Empty
6	Auto	Empty	Empty	Empty	Empty
7	Auto	Empty	Empty	Empty	Empty
8	Auto	Empty	Empty	Empty	Empty
- Dante Configuration:** LM26-1732cd3e51, Dante Disabled
- Receiver Subscription Table:**

#	Channel name	Status
1		
2		
3		
4		
- GPIO Configuration Table:**

GPIO	Acting on	->Closed	->Open	Currently
1	No Action	-	-	OPEN
2	No Action	-	-	OPEN
- GPIO Indication Table:**

GPIO	Indication	If closed	Currently
1	No Indication	-	OPEN
2	No Indication	-	OPEN
- Analog Iso-Float & AES Termination:** Inputs 1-2, Outputs 1-6

The main workspace shows two delay frame configurations:

- Module A - Delay Left:** Frame DELAY, Base Config, No Base Cfg. Shows a signal path from four inputs (Input 1-4) through delay blocks to four outputs (Output 1-4).
- Module B - Delay Right:** Frame DELAY, Base Config, No Base Cfg. Shows a similar signal path for four inputs and four outputs.

図7 ページ 4 Delay フレーム I/O Config & Worksheets